



学校と家庭の架け橋 P T A 広報紙

6月10日（金）茨城県三の丸庁舎にて、茨城県立産業技術大学校（県立IT短大）専任講師 高橋 俊英先生を講師に「PTA広報紙の作り方研修会」を開催いたしました。北は北茨城市から南は龍ヶ崎市まで、31名の皆さんにご参加いただき充実した2時間半を過ごしました。スタートは、PTAの名称にちなんでのアイスブレイク。皆さんそれぞれが、「Pは、ポジティブに Tはチームワークで Aはアクティブに」など、それぞれの意味付けを考え、グループや全体で紹介し合いました。

雰囲気が和んだところで、いよいよ講義や実技に情報交換を交えて研修が始まりました。内容は、PTA広報紙の目的や企画会議のポイント、目指すべき広報紙、そして、見出しの付け方や伝わる記事の書き方など、他校の広報紙や実際の新聞を使いながら、実践的な研修を進めていきました。なお、別添は、当日使用しましたスライドの概要です。



他校の広報紙から魅力を探る。➡

以下、参加者の皆さんが最後にに書かれた「今日の気付きや感想」をいくつかご紹介します。気付きや感想の中にも広報紙作りのヒントが垣間見えると思います。

○型にはまらない広報紙，他校の広報紙を見て驚きと感動がありました。こんな広報紙を作ってみたいなあとしみになりました。P（プラス思考）・T（楽しく）・A（明るく），メンバーとやっていきたいと思ひます。

○学校毎に個性があり，アイデアも全く違うことに気づきました。今までの広報紙と同じレイアウト作成をしてきたので，固定観念にとらわれず，これから作成していこうと思ひました。保護者や子どもたち目線で広報紙を作成するのも大切だと思ひました。一目見てすぐ手に取りたくなるような表紙を目指して作成したいと思

います。

- 初めて広報委員になり、右も左もわからない中作業を進めてきましたが、前年通りだけではなく、新しい発想で新しい紙面を作ってみたいと思いました。
- 広報紙は自由に作成して良いということが分かった。見出し10文字。
- 読み手が楽しくなる工夫は、書き手が楽しく表現することと学びました。
- とらわれない紙面。毎年同じレイアウト➡伝えたいことを変わりやすく、見やすく。記事にあった紙の使い方。
- とても衝撃的でした。たくさんの気づきをありがとうございました。
- 見出しやレイアウト次第で、読み手の興味が変わる。まずは手に取りやすい広報紙を目指したい。
- 見出しの重要性が良く分かり、それを心がけていきたいと思いました。
- 他校の広報紙を見て、手に取りたくなる工夫がされていると感じた。写真の配置や活動内容が伝わる工夫がされている。見出しの言葉の重要性も感じた。



↑ 付箋を使って意見の交流

- QRコードの活用、レイアウト・写真の配置に動きを、見開きページの活用➡すぐに取り入れられるアイデアを次号に活かそうと思います。
- 他校のPTAの方とお話ができ、皆さん本気で広報に取り組んでいてとてもよかったです。
- こうしなければ・・・、これまでこうだから・・・と固定観念から、自分自身が柔軟に考えられるようにしていきたい。他校の広報紙を比較することで、目からウロコのことばかりであった。何が求められているかリサーチすることで、学校と家庭のやりとりをより深められると思った。



↑ 気づきと感想の記入

